

2019(平成 31) 年度

事業報告書

2019(平成 31) 年 4 月 1 日～2020(令和 2) 年 3 月 31 日



社会福祉法人神愛会

2019 年度 事業報告

2019 年も各方面からの様々なご支援によって神愛会の事業を行うことができました。感謝をもってご報告申し上げます。本年も昨年と同様に特別養護老人ホーム愛の園にあっては人材の確保という大きな課題を抱え、また深和ホームにあっては入居者の伸び悩みなど、法人にとっては非常に厳しい状況が続いた 1 年でありました。そういった課題を抱えながらも、地域社会の中で役割を担う施設としての在り方について課題も多く検討されました。また、今後予想される南海トラフ巨大地震や異常気象に対しても、地域の拠点としての在り方などより具体的な検討が必要となっておりま



理事長 宮崎靖子

特別養護老人ホーム愛の園ではケアに携わる者の人材確保がままならず、目標としていた閉鎖中ユニットの再開が実現できないまま、長期入居・ショートステイともに利用の制限をしながらの事業運営となりました。法人全体において、労働環境の改善、職員の育成、採用活動の充実に新年度もあらためて覚悟を持って取り組まなければなりません。

深和ホームについては相変わらず入居者が伸び悩み、経営状態の改善には至らず、入居者獲得のため継続した取り組み、運営の抜本的な改革が求められています。

デイサービスは利用者数が昨年度から微増となり、比較的安定した運営が行えています。今後の利用者数の増加を見込み、利用定員を 35 名に変更、職員数もケアスタッフを 1 名増員して運営を続けています。

介護員研修事業では第 1 回介護職員初任者研修が 2019 年 5 月 26 日に終了し、高校生から社会人まで 8 名に全カリキュラムを修了することができました。しかし、第 2 回の開催を計画していましたが、上記のように他の事業が厳しさを増す中、結果的に開催することができませんでした。

喫茶・傾聴・レクリエーション・園芸・ヨガ・マッサージ等多岐に渡るボランティア活動には延 1848 名の方々にご奉仕いただきました。この内、園芸ボランティアの活動が評価され、「花を愛する県民の集い 第 23 回花いっぱいコンクール」において、最優秀賞に選ばれました。

また、愛の園後援会、愛の園家族のからも変わらぬご支援をいただきました。この内、愛の園後援会からは軽自動車の寄贈を受けました。感謝をもってご報告いたします。

園内研修では、職員を対象にした研修に加え地域住民や介護専門職員を対象とした公開講座を 3 回実施し、定期的に地域の方々が参加できる研修を機会を今年も確保しました。施設の中だけでなく地域とともに高齢者を支えていくことも神愛会の大きな課題となっています。また、すべての職員が県が推進する「～障害を知り、共に生きる～ あいサポーター養成研修」を受講し、「あいサポーター企業・団体」として認定されました。

今年も様々な課題をもった運営が続いていますが、「キリストの愛を以って互いに仕える」という神愛会の使命のもと、神愛会の施設で生活する人、利用する人、地域の皆様に必要とされ信頼される働きとなるよう運営を続けてまいります。新しい年度も皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

2019 年度 役員会等 報告 (2020 年 3 月 31 日現在)

A. 理事会

1. 理事 6 名

赤木雅哉 高地 敬 崎山賢士 宮崎靖子 宮本眞子 武藤直二

2. 報告

開催日	出席	協議題
2019 年 5 月 25 日	6 名	1.2018 年度事業報告 2.2018 年度決算 3.2019 年度定時評議員会招集 4.生馬土地使用貸借契約について 5.評議員候補者推薦について
2019 年 6 月 15 日	5 名	1.理事長選定 2.就業規則変更
2019 年 9 月 8 日	6 名	1.給与規定改定 書面決議
2019 年 11 月 30 日	5 名	1.2019 年第 1 次補正予算 2.愛の園施設長・居宅管理者選任 3.深和ホーム運営改善計画
2020 年 3 月 9 日	6 名	1.2020 年度事業計画 2.2020 年度予算 3.嘱託医師雇用契約

B. 監事会

1. 監事 2 名

泉 亮 大橋 博

2. 報告

開催日	出席	協議題
2019 年 5 月 18 日	2 名	1.2018 年度事業監査 2.2018 年度会計監査

C. 評議員会

1. 評議員 7 名

北山和民 木下賢治 米本道子 小山芳輝 滝本秀暉 西田哲也 服部万里子

2. 報告

開催日	出席	協議題
2019 年 6 月 15 日	6 名	1.2018 年度決算 2.理事・監事選任

D. 評議員選任・解任委員会

1. 評議員選任・解任委員 3名

泉 亮 稗田由紀子 ヒンソン・ダビデ

2. 報告

開催日	出席	協議題
2019年5月25日	3名	1.評議員選任

2019 年度 主要事業報告

月日	部門	行事・会合等
19/4/1	法人	全体職員会 新採用者研修 奥村貴充チャブレン就任
19/4/2	特養	登録喀痰吸引等変更届(4/1 付) 提出
19/4/5	特養	県議会議員一般選挙不在者投票
19/4/17	法人	次世代育成支援対策法に基づく一般事業主行動計画策定届 提出
19/5/4	特養	実地指導改善報告書 提出
19/5/18	法人	2018 会計年度監事会 開催
19/5/25	法人	2019 年度第 1 回理事会 開催 評議員選任・解任委員会 開催
19/6/5	深和ホーム	入居者懇談会
19/6/6	特養	春の遠足（白浜アドベンチャーワールド）
19/6/15	法人	2019 年度定時評議員会 開催
	法人	2019 年度第 2 回理事会 開催
19/6/26	法人	上富田町土地使用契約 締結
	特養・短期	特養・短期入所運営規程変更届 提出
19/6/28	深和ホーム	有料老人ホーム実地指導（和歌山県）
19/7/5	特養・短期・通所	介護職員等特定処遇改善加算説明会
19/7/15	特養	参議院選挙不在者投票
19/7/19	全体	新採用者研修
19/7/26	生馬施設	昼間想定避難訓練
19/8/6	法人	財務諸表等公表システム 報告
19/8/8	特養	家族の会役員会
19/8/11	法人	福祉の仕事フェア 参加
19/8/28	特養・短期・通所	介護特定処遇改善計画 提出
19/9/8	法人	2019 年度第 3 回理事会 開催（決議を省略して開催し決議があったとみなされた日）
19/9/9	特養	敬老訪問（和歌山県）
19/9/13	深和ホーム	避難訓練
19/9/18・25 10/2・9	全体	事故防止、虐待防止、身体拘束廃止園内研修
19/9/26	特養	敬老訪問（上富田町）
19/9/30	法人	神愛会創立 47 周年記念式（永年勤続職員表彰）
19/10/23 11/7	全体	権利擁護 園内研修

19/10/24-26	法人	聖公会社会福祉連盟第 60 回大会・研修会
19/11/1	全体	新採用者研修
19/11/15	特養	上富田町社会福祉協議会 愛の日訪問
19/11/19	法人	法人指導監査（和歌山県）
	特養・短期	特養・短期入所実地指導（和歌山県）
19/11/21 12/5	全体	感染症対策 園内研修
19/11/25	特養・短期・通 所・深和ホーム	介護保険事業集団指導（和歌山県）
19/12/12	法人	就業規則変更届
19/11/30	法人	2018 年度第 4 回理事会
19/11/25・ 12/5	全体	園内研修「感染症・食中毒」
19/12/24	全体	クリスマスイブ・キャンドルサービス
19/12/25	特養・深和ホーム	クリスマス聖劇・祝会 祝膳
20/1/1	特養	新年祝賀朝礼 愛の園 崎山園長就任
20/2/9	法人	福祉・介護・保育の仕事フェア参加
20/2/12・2/19	全体	園内研修「認知症」
20/2/22	特養	喀痰吸引等従事者研修修了(2 名)
20/2/21	特養・短期	介護支援専門員変更申請
20/3/1	特養	2 ユニット移動 特養区画変更申請
20/3/1	特養	登録喀痰吸引変更届
20/3/12・3/19	全体	園内研修「虐待防止」

2019年度職員研修報告

A 内部研修

日程	内容	主催・担当・実施団体等	対象	実数	延人数
4/1	神愛会の理念と沿革 事業方針・計画	主催 研修委員会 宮崎靖子理事長	全職種全職員	28	28
4/1	神愛会の理念と歴史 神愛会の組織・事業 事業計画 職員研修 身体拘束廃止 就業の知識 倫理綱領 深和ホーム見学	主催 研修委員会 理事長・部門管理者	新採用者	8	8
5/8・15	理学療法士による講義と実技 1回目 移動・移乗ケア ～褥瘡・スキンケア予防の観点～	主催 研修委員会 スマイリング訪問看護ステーション 理学療法士 佐々木基代	居室・医務室・訓練 室・デイサービス	61	61
6/12・19	理学療法士による講義と実技 2回目 ポジショニングの基礎 ～褥瘡予防の観点から～	主催 研修委員会 スマイリング訪問看護ステーション 理学療法士 佐々木基代	居室・医務室・訓練 室・デイサービス	54	54
6/26	地域公開講座 あなたのカラダを調べます ～臨床検査技師のお仕事～	紀南病院 中央臨床検査部 臨床検査技師 木下博之	地域の関係者他 希望者	8	8
7/10・17	理学療法士による講義と実技 3回目 車いす座位姿勢のみかた ～褥瘡予防の観点から～	主催 研修委員会 スマイリング訪問看護ステーション 理学療法士 佐々木基代	居室・医務室・訓練 室・デイサービス	63	63
7/19	神愛会の理念と歴史 神愛会の組織・事業 事業計画 職員研修 身体拘束廃止 就業の知識 倫理綱領 深和ホーム見学	主催 研修委員会 理事長・部門管理者	新採用者	4	4
8/8	感染症について	主催 研修委員会 社会福祉法人和歌山県福祉事業団 牟婁あゆみ園 園長 土井了子	全職種全職員	83	83
7/26	防災訓練（昼間想定）	主催 研修委員会	全職種全職員	22	22
9/18 9/25 10/2 10/9	高齢者虐待・身体拘束廃止・事故防止について ～事故事例を通して～	主催 研修委員会 講師 愛の園園長 武藤直に	全職種全職員	86	86
8/28	地域公開講座 支援困難事例と向き合う	主催 研修委員会 講師 愛の園 崎山賢士	地域の関係者他 希望者	10	10
10/23 11/7	権利擁護研修 ～あいサポーター研修を通じて共生社会のありようを 学ぶ～	主催 研修委員会 講師 あいサポートメッセン ジャー 崎山賢士	介護・看護職員	84	84
11/1	神愛会の理念と歴史 神愛会の組織・事業 事業計画 職員研修 身体拘束廃止 就業の知識 倫理綱領 深和ホーム見学	主催 研修委員会 理事長・部門管理者	新採用者	5	5
11/29	神愛会の理念と歴史 神愛会の組織・事業 事業計画 職員研修 身体拘束廃止 就業の知識 倫理綱領 深和ホーム見学	主催 研修委員会 理事長・部門管理者	新採用者	2	2
11/21 12/5	感染症対策研修 ～冬季に向けて気をつけたい感染症と血液感染につい て～	主催 研修委員会 講師 愛の園看護師 仁木和子	全職種全職員	83	83
12/23	地域公開講座 やってみよう！ 相談援助面接演習	主催 研修委員会 講師 愛の園 崎山賢士	地域の関係者他 希望者	10	10

1/13	神愛会の理念と歴史 神愛会の組織・事業 事業計画 職員研修 身体拘束廃止 就業の知識 倫理綱領 深和ホーム見学	主催 研修委員会 理事長・部門管理者	新採用者	1	1
1/21	神愛会の理念と歴史 神愛会の組織・事業 事業計画 職員研修 身体拘束廃止 就業の知識 倫理綱領 深和ホーム見学	主催 研修委員会 理事長・部門管理者	新採用者	1	1
2/12 2/19	愛の園における看取りについて 認知症ケアについて ～ユマニチュードビデオ学習～	主催 研修委員会 講師 愛の園 園長 崎山賢士	全職種全職員	76	76
3/13	神愛会の理念と歴史 神愛会の組織・事業 事業計画 職員研修 身体拘束廃止 就業の知識 倫理綱領 深和ホーム見学	主催 研修委員会 理事長・部門管理者	新採用者	3	3
3/12 3/19	身体拘束廃止と虐待防止について	主催 研修委員会 講師 愛の園 園長 崎山賢士	全職種全職員	76	76
内部研修 計				692	692

B 外部研修

日程	内容	主催・担当・実施団体等	対象	実数	延人数
8/7	家族支援の実際と介護支援専門員に求められる役割	2019年度一般社団法人和歌山県介護支援専門員協会 定例研修会 花園大学 社会福祉学部教授 福富昌城	居宅介護支援事業所 介護支援専門員	2	2
9/5～9/6	令和元年度 和歌山県高齢者権利擁護等推進事業 看護実務者研修	和歌山県看護協会	看護師	1	1
10/1	ケアマネジメントを深めるモニタリングのツボ	2019年度一般社団法人和歌山県介護支援専門員協会 定例研修会 あたご研究所 後藤佳苗	居宅介護支援事業所 介護支援専門員	3	3
10/3	施設でのケアマネジメント実践力向上セミナー	2019年度一般社団法人和歌山県介護支援専門員協会 定例研修会 あたご研究所 後藤佳苗	居宅介護支援事業所 介護支援専門員	1	1
10/8	和歌山県人権擁護推進委員研修	和歌山県 県担当者 和歌山県社会福祉士会	法人人権擁護推進委員	3	3
10/24～10/26	聖公会社会福祉事業連盟 60回研修会総会 CMウィリアムズに学ぶ 近江学園糸賀一雄とキリスト教 なんてん共働サービスの実践	主催 聖公会社会事業連盟	愛の園職員	1	1
10/26	ユマニチュードについて	主催 南和歌山医療センター	デイサービス職員	1	1
11/13 11/21 11/28	口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管内吸引・経鼻経管栄養 (胃ろう・腸ろう・鼻腔ろう)	主催 和歌山YMCA国際福祉専門学校	愛の園介護職員	2	2
11/19	企業トップクラス及び公正採用選考人権啓発推進員並びに企業における研修責任者研修会	主催 和歌山県 県担当者	愛の園職員	1	1
11/21	実地研修施設での2・4Hシート研修	主催 特別養護老人ホーム日置の郷	愛の園職員	1	1
12/2～12/4	2019年度Ⅲ期ユニットケア研修（施設管理者研修）	一般社団法人 日本ユニットケア推進センター	愛の園職員	1	1
12/26 1/7 1/8 1/16 1/17 2/12 2/19 3/2 3/13	和歌山県 介護支援専門員実務研修	主催 和歌山県 実施者 和歌山県介護支援専門員協会	愛の園職員	1	1
2/1	「医療連携の苦手を克服する3つのコツ ～医師から贈るケアマネへのメッセージ」	主催 和歌山県介護支援専門員協会 定例研修会	居宅介護支援事業所 介護支援専門員	1	1
2/13	高齢者に対する多剤処方 多剤併用を考える	主催 介護労働安定センター和歌山支部	居宅介護支援事業所 介護支援専門員	1	1
3/24	管内給食施設における災害対応に関する状況調査結果施設における停電時の対応事例	主催 和歌山県	調理室	1	1
外部研修 計				21	21

内部研修 外部研修 合計	492	525
--------------	-----	-----

C 研究大会・学会等

日程	研究大会・学会等	主催・担当・実施団体等	対象	実数	延人数
外部研修 計				0	0

2019年度 ボランティア状況

A 定期ボランティア

期間	内容	延人数	氏名・グループ名・活動名
通年 週単位	喫茶コーナー	486	喫茶ボランティア
	歌サークルやまびこ会	317	やまびこ会
	傾聴ボランティア	96	京都傾聴塾南紀支部
	ヨガ教室	260	山本たかおヨガ療法教室
	園芸ボランティア	100	園芸サークル
通年 月単位	ドッグセラピー	300	それ行け、マリモと愉快的な仲間達
	福祉ネイル	72	シニアメンタルビューティー協会
	マッサージ	50	中口智子
計		1,681	

B 不定期ボランティア

月	内容	延人数	氏名・グループ名・活動名
5月	花の日訪問	25	岩田幼稚園園児
7月	アコーディオン演奏・歌	4	坂本アコーディオンクラブ
9月	三味線	8	勝謡会
	マンドリン演奏	15	つぼみ会
	琴・尺八演奏	3	
	敬老訪問	25	岩田幼稚園園児
11月	愛の日訪問	4	上富田町社会福祉協議会
	収穫感謝祭訪問	21	岩田幼稚園園児
12月	クリスマス訪問	38	岩田幼稚園園児
	大正琴演奏	7	琴城会大正琴
	聖劇 オルガン演奏・コーラス	17	聖劇聖歌隊有志
計		167	

定期・不定期合計	1,848	
----------	-------	--

	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるために (質を高める具体策)	評価 (達成の内容・程度)
1 理念の継承	i 職員における理念の浸透・継承	i 年間を通じて ii チャプレンによる講和	i 新採用者への理念・沿革の研修 ii チャプレンによる研修 朝の祈りの継続 聖社連大会への参加	i 聖マリア院の活用 日曜礼拝への参加 ii チャプレンとの交わり 聖公会に連なる社会福祉事業を学ぶ	新採用者研修でマリア院を訪問し理念・歴史を学ぶ機会とした 朝の祈りの徹底は来ていない
2 サービスの質の向上	i 社会福祉法人の地域貢献活動への取り組み	i 介護職員初任者研修の開講検討 ii 社福軽減の拡大 iii その他の課題の検討と実施	i ii 本部事務局で実施 iii 社福軽減以外の項目で神愛会が出来る事を検討し、取り組みを開始する。	i ii 本部事務局で実施 iii 社福軽減以外の項目で神愛会が出来る事を検討し、取り組みを開始する。	i 介護職員初任者研修を開催し8名が修了したが、第2回の開催は、看護師の講師が手当てでできず、また新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。 ii 社福減免の対象者はいなかった iii 地域の介護関係者を対象に公開講座を3回開催した
	i 閉鎖中のユニットの再開	i 特養・ショート職員10名(上半期5名・下半期5名)の確保	i 本部事務局・特養施設長による	i 可能な限り採用面談の機会を設ける。 ii 少ない応募者の確実な定着を図る。 iii 外国人技能実習生受入れの検討。	i 職員の増員を実現できず閉鎖中ユニットの再開は叶わなかった。職業安定所での企業説明会参加等新たな取り組みを試みている。平成31年3月の介護職員39名 令和2年4月の介護職員53名と4名増員。令和2年中のショートステイ10床での稼働開始を目指す。
	i 実践的な認知症ケアの導入 ii ユニットリーダーの育成 iii ユニットケアの進展	i 認知症介護実践者研修 ii ユニットリーダー研修 iii ユニット活動計画の実施	i 認知症介護実践者研修 ii ユニットリーダー研修 iii ユニット会議で	i・ii 参加者によるフィードバックの実施 iii 期中での進捗状況点検	i・ii ユニットリーダー研修は参加できなかったが、管理者研修へ1名参加することができた。 iii ユニット活動の計画は各ユニットにより実施できた 24時間シートの活用を進めている。
	・防災訓練の充実 ・緊急呼び出し訓練	・防災訓練(年2回)の実施(初期消火・避難誘導) ・毎年1回実施	・上富田消防署及び防火管理者による消火器・消火栓取扱指導説明 ・防災訓練の見直し ・緊急連絡網による呼び出し訓練の見直し及び実施	・行動表作成及び詳細説明 ・消火器及び消火栓の基礎的説明、実地訓練 ・役割担当職員を対象に事前説明を実施 ・呼び出し訓練日の予告	・昼間(7月26日)、夜間(11月29日)想定防災訓練(上富田消防との合同)の実施 ・火災報知機・消火器・消火栓の取扱い説明は良くできた。 ・役割担当職員への事前説明は丁寧に出来たが、訓練本番での緊張感をもった行動がとれなかった。 ・緊急連絡網による呼び出し訓練は実施できなかった。

	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるために (質を高める具体策)	評価 (達成の内容・程度)
3 職員の 資質向上	i 新人研修の充実	i 採用後1週間以内の基礎研修	i 施設長・管理者・事務長	i 新人指導チェックリストを用いたフィードバックの実施	i 新採用者研修を7回実施しチェックリストを活用した
	ii 新人介護職研修の充実	ii 採用後1か月以内の介護基礎研修と1年間のOJT研修によるフォローアップ	ii 介護主任・副主任・実習指導者・ユニットリーダー	ii 新人指導チェックリストを用いてOJT研修を計画的に実施	ii OJT研修は各現場での対応に止まった
	iii 職員研修の充実	iii 分野ごとに相応しい研修が受講できるように研修を細分化し、それらに到達目標を設定	iii ケアワーカーおよび事務方スタッフなどにおいては、年間3回程度事前および事後課題を含めた研修を行い、参加者自身の能力を覚知するとともに、それより高い能力の獲得を目指せるようにする。調理スタッフについてはより良い食事の提供に向けた実習を加える	iii すべての職員が専門職としての価値や技術、知識を確実に定着させ、実際の業務に活かせるように研修プログラムを工夫し各研修の達成目標に到達できるように研修委員が中心となって丁寧にかかわっていく	iii 職員研修については予定していたすべての研修を行うことができたが、それらが職員一人一人に目標にあわせて定着したかを評価することは難しい。また、事前課題については職員の負担が大きいくともあり、十分に行うことができなかった。組織内SNSを構築し、研修補助資料を継続して配信する取り組みを進めている。
	iv 人権にかかわる研修の充実	iv 社会問題化する養介護施設従事者等による虐待など人権侵害を未然に防止する	iv 法人のすべての職員	iv 集合研修の時間は限られているため、人権侵害にかかる啓発をさまざまな媒体でお行えるようにする	iv 高齢者虐待防止に関わる研修はもちろん、その中でも身体拘束についての研修内容を強化することが求められたため、その時間数を増やすなどの対応を行った。また、施設内で発生した重大事故事例をもとにして職員への安全啓発のための研修を少人数で行った。

	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるために (質を高める具体策)	評価 (達成の内容・程度)
3 職員の 資質向上	v 研修講座の地域への開放	v 各月程度の割合で法人で開催する研修の一部を地域の介護関係者に開放	v 研修担当者が研修を企画し、法人内外の介護関係者に有益な講師を調整する	v 法人で開催する研修を社会貢献の一環で地域に開放し、共に介護技術や知識などを高める機会とする	v 地域公開講座については予定していた6回の研修が3回程度の開催にとどまった。
	i ユニットリーダー研修 ii 権利擁護推進員研修 iii 認知症介護実践者研修 iv 介護福祉士実習指導者研修 v 介護福祉士・介護支援専門員資格取得	i ~ iv 年間を通じて v 試験対策として	i 前期・後期各1名の参加申請 ii ~ iii 和歌山県主催研修に参加 iv 介護福祉士会研修に参加 v 個別学習の援助 勉強会の開催 模擬試験への参加	i ~ iv 外部研修情報の提供 職員の興味・関心を重視した参加者の選考 参加者によるフィードバックの実施 v 受験資格者への働きかけと費用負担を含むサポートを実施	i ~ iv 外部研修は15研修に延21名が参加した 人権擁護研修に2名、ユニットケア管理者研修に1名が参加した 2月以降は新型コロナウイルス感染症の影響で参加できる研修に限られた v 実務者研修に1名が参加し費用を支援した
4 地域との連携	i 喫茶・音楽・傾聴・ドッグセラピー等定期ボランティアの継続 ii 訪問ボランティアの受入増加 iii 研修機会の提供	年間を通じて	i 送迎の継続 ボランティア向け研修の実施 iii ボランティアの集いの実施	 iii ボランティア参加者の意向を尊重した集いや研修の開催	i 定期ボランティアに多くの参加を得ることができたが、1月に入ってからインフルエンザや新型コロナウイルス感染症の影響でボランティアの受け入れを制限せざるを得なかった。園芸ボランティアにおいては県内のコンクールにおいて最優秀賞を受賞し、今期は全国大会への出展を予定している。 ii 訪問ボランティアは岩田幼稚園をはじめ19件の参加を得た iii ボランティアの集いであいさつ研修を行った
	i 後援会・家族の会事務局を運営	i 年間を通じて ii 敬老の日	i 両会の事務局を担当	i 会報・会合の充実 ii 催しの計画を早期に開始	両会の事務局を担当し、順調な運営ができた 敬老行事、クリスマス行事の準備も滞りなく実施できた 後援会からは9月16日「一日我が家」において軽自動車の寄贈を受けた
5 旧施設整理	防災・防犯、景観改善のための解体整理の計画	年度内の計画策定	本部事務局において検討	本部事務局において検討	経営状況は改善せず、来期以降の課題として持ち越した
コ メ ン ト	介護・看護職員、生活相談員の採用および定着が進まず、受入入居者・利用者の誓願が続いていることが財政的にも大きな課題となっている。また、意欲・適性のある職員の採用のため採用試験の内容について改善を図っている。 介護事故への対応について、適切な検証・報告ができていない事例が続く、改善のための取り組みに着手している。 組織内SNSを構築し、情報伝達および効果的な研修の補助機能として活用がなされている。 喀痰吸引等の医療的ケアの研修は実務者研修修了者も参加して有資格者を維持している。また、介護福祉士については5名が合格するなど職員のスキルアップがなされている。 新型コロナウイルス感染症の影響で2020年に入ってから、ご家族の面会制限やボランティアの受け入れも満足にできない状況が続いた。このことは少なからず法人の運営に影響を及ぼしており、職員や入居者の感染防止はもちろん、刻々と変化する行政の動きなどに柔軟に対応する必要がある。				

	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるための具体策	評価 (達成の内容・程度)
2 サ ー ビ ス の 質 の 向 上	①ケアプランに沿ってケアができているか ②24時間シートを作成できているか ③新人職員の指導ができているか ④ターミナルケアは充実しているか ⑤感染対策は出来ているか	通年	①ケアプラン会議、ユニット会議にて検討しながら実施していく ②担当を決めて作成し観察しながら変更し、それに沿って業務を進行していく ③その時のシフトの職員が丁寧に寄り添い教えていく ④⑤勉強会や研修で学ぶ	多職種合同会議にて課題を検討する 職員間の相談をより密に行う	施設介護計画書に従い個別ケアを実施し、担当者や他部署との連携を図ることが概ねできた。利用者の状態の把握も随時行っており、0%程度の達成と言える。 24時間シートについては今後の課題と言える。ほぼ達成できていない。 新人職員の指導については十分とは言えない。ユニットごとに班があり、退職者が多いため、50%程度の達成と言える。 ターミナルケアについてはターミナルケア実施計画に従って概ね対応できている。勉強会等も確実に行えているため90%の達成と言える。 感染症対策としては、様々な感染症の集団感染の報告はなくおおむね対応できているため、90%の達成と言える。
	24時間シートの充実を図りケアプランに沿ったケアを実践する		①24時間シートは利用者毎の担当者によりアセスメントを行い、ケアプラン会議、ユニット会議で策定し実施する。各部署間の連携を図り、的確な相談援助や緊急時の対応等ができるように業務にあたる。 ②利用者の日常生活ニーズを正確に把握し異常の早期発見に努める。指差し確認等、具体的な行動により確認を徹底、カラオケ・テレビ体操・やまびこ会・マリア会等、楽しさを伴う種目を提供する。	多職種によるカンファレンスで詳細に検証する。看取りの振り返りカンファレンスを実施する。 入居契約の際に、相談苦情への受付窓口の説明を徹底する等の丁寧な対応を行う。	毎月のユニット会議で行われている。多職種の情報共有は概ねできているが、各職種のユニット会議への参加率などを考慮すると80%程度の達成と言える。 24時間シートの活用については、2020年に入ってから参考書籍を各ユニットに配布し、入居者への聞き取り項目を定め、ユニットケアについての情報提供を随時行うなど積極的に行える環境整備を行っている。
	入居者の権利擁護を図り、快適な入居生活を支援する。		各部署間の連携を図り、的確な相談援助や緊急時の対応等ができるよう業務にあたる	入居契約の際に、相談苦情への受付窓口の説明を徹底する等の丁寧な対応を行う	入居者の権利擁護に関する取り組みとしては十分に丁寧な対応ができたため、100%の達成と言える
	入居者・利用者異常の早期発見 誤投薬の予防	通年・随時	異常の早期発見に努めるため、観察・報告・連絡・相談の徹底 複数の目での確認	多職種連携により情報の共有 写真などの活用。正しい知識・冷静な判断と行動・報告・連絡・相談の徹底	看護師の定着がままならず知識や技術の伝承が十分に行えなかった。しかし、大きな事故等はなく70%程度の達成と言える
	ケアプランに沿った個別機能訓練の提供		カラオケ・テレビ体操・やまびこ会・マリア会等、楽しさを伴う種目を提供 居室を訪問し可動域訓練を実施	機能訓練指導員と介護職員との分担により、より個別的な機能訓練メニューを実施する	カラオケ・テレビ体操・やまびこ会の参加者は1日平均50～60名です。平行棒内での立位・歩行練習は平均10名 可動域訓練(居室内)は8名～10名の訓練を実施しました。

	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるための具体策	評価 (達成の内容・程度)
	新しい調理システムの導入 衛生管理の徹底	通年	自分の役割を把握して作業する 調理室内の清潔を保つ毎朝の衛生チェック	分からない事や改善点があれば、その都度話し合い、解決する。 午前、午後の業務終了後の盛り付け台、冷蔵庫の取って等へのアルコール噴霧 シンク、調理台、冷蔵庫の取って等の汚れを随時きれいにする 月1回の大掃除の実施 体調の自己管理に努める	クックチル導入により調理オペレーションが大きく変更になった。 その中で、分からない事や改善点があれば、その都度話し合いを行い解決することができたため、100%の達成と言える。 調理室内を衛生的に保てるように、調理室職員一人ひとりが洗浄・消毒などを徹底したため、90%の達成と言える。 体調の自己管理に努め、体調を崩した時は早期に受診し回復に努めることが出来たため90%の達成と言える。
	入居契約時、ご家族にわかりやすく丁寧に説明する	随時	入居契約日までの手続き準備書類のチェック表を活用する	入居契約の説明と契約日を別に設け、契約書類の説明後、ご自宅でゆっくりと書類に目を通す期間を設ける。 疑問点や不安な点を十分に伺い納得して入居できるよう配慮する	新規入居者への説明については丁寧に行うことができ、本人や家族からの苦情もないため100%の達成と言える。
	閉鎖中ユニットの受け入れ再開	通年	介護職員の補充に全力を挙げできるだけ速やかに再開する。	介護職員の定着のためシニアスタッフによるきめ細かい指導を行う。 勤務環境の不備・不足がないか点検を実施する。	介護職員の定着がままならず、結果的に閉鎖中ユニットの受け入れ再開はかなわなかったため0%の達成と言える
	退居後の空室期間を可能な限り短縮し、資源の活用を図る	通年	入退居手続きを迅速に行い、空室が続くことを防ぐ。	新規申込時の面接、待機者情報の更新を毎月行う。	年度後半より原則として申込時に面接を実施している。 待機状況調査を定期的に行っている。
	退居後の空室期間を可能な限り短縮し、資源の活用を図る		入退居手続きを迅速に行い、空室が続くことを防ぐ。	新規申込時の面接、待機者情報の更新を毎月行う。	待機者の早期面接は十分に行えたとは言えないが、空床期間を短縮することはある程度できた。このため50%の達成と言える

	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるための具体策	評価 (達成の内容・程度)
3 職員の 資質向上	研修参加と資格取得	介護福祉士資格取得 介護支援専門員資格取得 外部、部署内、内部研修参加	部署内研修 部会研修 園内研修 勉強会の開催	啓発ポスターやチラシを配る 研修の計画を立てる	・ターミナルケア(全職員)、感染症対策(介護・看護)の職員研修を実施した。 介護福祉士は受験したすべての者が合格。介護支援専門員1名合格。介護福祉士による喀痰吸引にかかる研修は2名修了。 介護職員初任者研修は2名修了した。このように予定していた研修は順調に受講、合格、修了できているため100%の達成と言え
	正しい医療知識の習得	通年・随時	情報交換の徹底	各職員のスキルアップの 為内部・外部の研修参加	看護師としての外部研修にはほとんど参加することが出来ず、十分にスキルアップができたとはいえず、50%の達成と言える。
	新しい調理システムの導入 衛生管理の徹底	通年	自分の役割を把握して作業する 調理室内の清潔を保つ毎朝の衛生チェック	分からない事や改善点があればその都度話し合い、解決する	クックチル導入により調理オペレーションが大きく変更になった。 その中で、分からない事や改善点があれば、その都度話し合いを行い解決することができたため、100%の達成と言える。 調理室内を衛生的に保てるように、調理室職員一人ひとりが洗浄・消毒などを徹底したため、90%の達成と言える。
	新採用職員へのきめきめ細かな指導に努める	通年	新採用者毎に担当職員を配置する。 新入職員指導チェックリストの活用	新採用者・担当職員の連携を緊密に行う。 働きやすい環境を整備する。担当職員の連携を緊密に行う	新採用職員に対するきめ細やかな指導については、離職者が多く十分でなかったことは明らかである。このため30%の達成と言える。
	ボランティアを行いたい方と園との日程調整をし、積極的に受け入れていく	通年	・愛の園ホームページなどを使用して積極的にボランティアを募集する。	愛の園でのボランティア活動がスムーズに進めていけるように代表者の方と連携を密にし、受け入れ準備を行う。	各ボランティアグループとの連携を図り、安定した運営がおおむねできたため、90%達成と言える。 深和ホーム職員の協力を得て送迎を継続し、スムーズで活発な活動がおおむねできたため90%の達成と言える。
4 地域	家族の会や後援会が行う活動との連携を図り、支援をしていく。	通年	後援会、家族の会の事務局業務を行う	家族の会・後援会役員等との連携を密にし、より良い運営が出来るよう支援する。 家族の会・後援会の会報を年2回発行し長期入居者ご家族への活動の紹介と勧誘を積極的に行う。	両会の事務局を担当し、順調な運営ができた。敬老行事、クリスマス行事に協力いただいた。 それぞれ予定通り会報が発行された。家族の会は加入者の増員が図れた。

	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるための具体策	評価 (達成の内容・程度)
この連携	家族の会や後援会が行う活動との連携を図り、支援をしていく。	通年	後援会、家族の会の事務局業務を行う	家族の会・後援会役員等との連携を密にし、より良い運営が出来るよう支援する。 家族の会・後援会の会報を年2回発刊し長期入居者ご家族への活動の紹介と勧誘を積極的に行う。	両会の事務局を担当し、順調な運営ができた。敬老行事、クリスマス行事に協力いただいた。それぞれ予定通り会報が発刊された。家族の会は加入者の増員が図れた。
コメント	介護・看護職員、生活相談員の採用が進まず、新規入居者の受入れが十分にできないことが財政的にも大きな課題となっている。利用者を権利を擁護し、丁寧なケアを行う意味でもすべての職員が神愛会掲げる理念と使命の方向を向き、そして個別に作成されるケアプランに記された課題を一丸となって達成していくことが重要である。そのためにはユニットケアを行ううえで基本となる24時間シートの確実な作成やチームケアの意識などを徹底させていかなければならない。資格取得については計画的に進んでいるが、資格を持ったものであっても専門職としての日々の研鑽が重要であることを意識することが求められる。				

2019年度 ユニット活動報告

U	今年のテーマ	改善に取り組む内容 (課題・実施時期・進め方など)	丁寧に実施していくための具体策 (方法・心掛け・目安など)	評価 (達成の内容・程度)
1	① 統一した個別ケアの徹底	① ユニット職員同士・他部署との連絡報告相談の徹底 ② 職員同士の信頼関係を築く	① 入居者の状況を把握し共有する。入居者の少しの変化を ② 見逃す事の無い様子配り・気配りを心掛ける ③ チームケアが重要だという事を意識し支援していく。職員同士意見を出し合い話し合いが出来る雰囲気を作り出す。	①② 入居者の身体変化を職員同士申し送り共有できていたと思うがPC等に状況を記録出来ていなかったことが多々ありました。少しずつですが日頃からケアについて話し合いが出来るようになってきたと思います。80%達成
2	① 個別ケアの把握と統一	① 入居者それぞれの出来ること、出来ないことを把握し職員の都合や職員により異なるケアではなく、入居者主体の統一したケアを提供できるようにする。	① 各職員が入居者の現状を把握し意向を共有する ② 意見交換がしやすい雰囲気づくりを心掛ける	① 申し送りノートや口頭で伝えるが利職員によっては理解できていないこともある。入居者の現状は少しずつではあるが、把握ができている様子。70%達成 ② 新しい職員が多いこともあり、なかなか自分の意見が出るところまで行かず、今後の課題である。チームワークの強化に努めたい。60%達成
3	① 入居者の状況把握 ヒヤリハット・事業報告について	① 各職員が一人一人の入居者の状況や体調などを把握しケアに繋げ、他の職員との共有を図る。 ② 入居者の行動を把握し情報を共有し危険を予測して見守りを強化、また援助に繋げる。	① ユニット職員間での申し送りの徹底、話し合いを密に行い、情報共有を行う。 ② 気の緩みや怠慢、過信しない事。常に緊張感をもって援助する。周りの環境や介助の仕方等危険がないか予測して行動する。+	① 各シフトで職員間での伝達がきちんとできていないことがあった。60%達成 ② ①の内容に重複するが、職員間の情報共有にかけていた。ヒヤリハット等の事例について、再発防止策の予測が足りなかった30%達成
4	① 多職種連携のもと、個別ケアを支援する。	① 個々の意向や状況に応じて支援する。	① 申し送りメモを活用し、他部署との連携を密にする。 ② 職員一人ひとりが現状を把握し、ユニット内で情報を共有し合える雰囲気づくりを心掛ける。	①② ユニット内での申し送りはまずまず出来ているが、他部署への申し送りが出来ていない事がありました。達成50%
6 短期	① 個別ケアで安定した生活を支援	① 個々の利用者の意向や状態 ② 変化を把握し、職員間で情報共有する。他部署と連携し、必要時は、ケアの変更や改善をする	① 申し送りノート、メモを活用し、ユニット職員間で情報を共有する ② 利用者の日常生活やコミュニケーションからの気づきを、職員間で意見交換していく	①② 職員間で申し送り、改善、注意点など、気付いた時点で互いに意見交換しながらケアにつなげていく努力が出来ていると思う。80%達成
7	① ユニット職員、他部署との連携をとる ② 入居者1人1人のケアの把握 ③ 丁寧な仕事をする	① ユニット内、他部署の(報告、連絡、相談)をこまめにとる ② 申し送りノート等の細かな記入と毎日目を通し自身で把握すること 自身のペースや入居者のペースに合わせ丁寧な仕事をする	① 入居者の変化等些細な事をユニット職員、他部署に報告、連絡、相談し合い、常に話し合う ② 自身で申し送りノートに目を通し把握する、意味が分からなければ聞き把握する 一つ一つ丁寧な仕事をする	① 突発時の対応や他部署への報告が遅れ、ユニット内で止まっていることが時々ある。60%達成 ② 申し送りノートの把握、自身に合わせ丁寧なケアを行っていたが、今以上に入居者1人1人の表情や変化を見ながら仕事をする。70%達成

2019年度 ユニット活動報告

U	今年のテーマ	改善に取り組む内容 (課題・実施時期・進め方など)	丁寧に実施していくための具体策 (方法・心掛け・目安など)	評価 (達成の内容・程度)
8	① 安心できる生活	① けが、事故の予防 ② 過ごしやすい場所である	① ヒヤリハットの振り返りを行う 怪我しやすい入居者やその状況を分析し、事故を未然に防ぐ方法及びケアの仕方を考える。 また、その方法及びケアの仕方をユニットの職員全員が出来るようにする。特に新任職員には、事故予防の正しい認識を得る様に丁寧に説明する。 ② 介助具や住環境の点検・使用している良肢位枕のサイズ、素材は適当か随時見直しを行う。 ・室温、衣類は適度に調整されているか ・ベッド、車いすで食事をするために、適切な姿勢になっているか。安楽姿勢であるかなど、毎回細やかに観察を行い、改良していく。	① について 60%達成 ヒヤリハットの振り返り自体は毎回行ってきましたが、同じ入居者で同じような状況で何度かヒヤリ案件があった為。確実な予防策が取れていなかったため、防げなかったのだと思います。 ② について 80%達成 大体できていたと思います。
10	① 入居者のニーズに対応した個別ケアの実施	① 他部署との連携を図り質の高いチームケアを行う 入居者の抱える障害や疾病 ② を理解した、適切なケアと丁寧なサービスの提供 ③ 園内研修などで学んだ内容を意識したケアを行う	① ケース記録と送りノートの情報を把握し、統一したケアの実施と職員間の「報告・連絡・相談」の徹底 ② 入居者の状態の変化やケアプラン変更時の24時間シートの見直し。 ③ 入居者とコミュニケーションを図り、施設での生活が充実したものになるよう、季節が感じられる花見や誕生会のおやつレク等、楽しめる時間をつくる ④ 職員間で改善すべき点や問題点を話し合い自己研鑽に努める	① 送りノートの出勤時の確認のサインが徹底されていない職員があり本人に確認することがある。75%達成 ② 24時間シートの見直しは2020年4月に完了しました。100%達成 ③ 外出については新型コロナウイルス感染症の影響があり実行できませんでしたが、月1回のおいしんぼ企画は出来ました。50%達成 ④ 職員間での改善すべき点や問題点の話し合いは出来ましたが、改善されておらず、同じ入居者のヒヤリハットや同内容のヒヤリハットが頻発している。10%達成
11	① 職員間の連携 ② 統一したケア	① 報告、連絡、相談を欠かさない ② 仕事に対するチームワークの強化 日々のお年寄りに対しての観察	① 普段から職員間で話のしやすい状態を作っておく ② 送りノートの活用	① 送りノートの活用や普段から職員間での話しやすい状態作りを基本とし送りノート自体の利用も多く項目も増えているので忘れがちになってしまう場合もある。日勤で出勤した者にも口頭でも確認し入居者へのケアに当たるとも併せて行っている。 今年のテーマ、目標である職員の連携と統一した入居者への個別ケアともほぼできたと考えている。 90%達成

事業	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるために (質を高める具体策)	評価 (達成の内容・程度)
1 理念の継承	①地域・家族への情報発信・相談援助の機会を増やす。 ②当該地域の地域包括ケアシステムにおける社会福祉事業としての位置づけを理解する	通年	①外部への情報発信と家族や地域の方の見学・訪問の機会を増やす。 ②現場スタッフのケースカンファレンス等への参加および対人援助能力の向上	現場スタッフのケースカンファレンスへの参加を増やし本人家族の思いを直接現場に取り入れる形を推進する。 地域に向けてイベントや見学をPRし、家族とともに参加できる研修や見学会の開催	地域にスタッフが出向いて行っている発信は出来なかった。研修や見学会などの開催も実現できなかった。 ケアマネジャーに毎月交付する報告書については工夫を加え、意義ある連携が図れていると考えている。
2 サービスの質の向上	新規顧客の獲得 稼働率の向上	年間5000人以上の利用	①プログラムの充実 ・ADLを向上させるためのエクササイズの研究 ・体を動かした後に休めるスペースの確保 ②ご家族や地域との結びつきを強化し、デイ新聞などを通して居宅事業所・ご家族に通所時の様子や定員の稼働状態を継続して報告 ③送迎対応エリアの再検討	プログラムの充実を図り、参加者にとって効果と魅力のある仕掛けを多く用意する。 地域との結びつきの強化する。 個々の移送技術を向上し、現在の送迎体制を再検討。送迎対応エリアの拡大を検討。	年間利用者数(延べ人数)は5531人と目標を達成した。 これも、報告書の工夫など、書面による発信を丁寧に行ってきた成果と考えている。 送迎エリアの拡大については白浜湯崎方面の送迎も可能としている。
	通所介護計画の周知の徹底	通年	ケアプランの策定、検討の機械の頻度を増やす。全員が同じ方向性を以って個別ケアに対応する	ケアプランを検討する頻度を密にし、個別の生活背景・要望・ニーズ・目標等を理解した上で個別ケアを行う事ができる体制づくりを目指す。	ケアプランの丁寧が作成と周知はもとより、スタッフ同士でも共有出来る様に、送迎出発時にコミュニケーションをとる機会を作っている。 よって、周知はすすみ目標の共有はある程度進んだと考えている。しかし通所介護計画の周知は完璧ではなく今後も改善の努力が必要。
	通所介護利用時における利用者の客観的な情報の蓄積とその活用	通年 実施はできるだけ早く	バイタルサインだけでなく食事量、水分量、尿量、BMIなどの客観的な情報を電子的に記録し、利用者の状態を見える化する。またこの情報を介護支援専門員などとも共有する。	客観的な情報を丁寧に取り扱いながら、利用者にとって最適なケアを探り、ケアチームにおいても情報が共有していけるように報告書を作成していくことを目指す。	報告書は平成30年度初めに完成しており、順調に運用が出来ている。また、この報告書が利用者の救急搬送時に活用されるなど、効果の広がりを見せている。
3 職員の資質向上	相談援助の充実と地域のニーズの掘り起こし	認知症実践者研修に1名参加させる 部署内での認知症に関する研修(随時)	部署内・外部研修を活用し、認知症に関しての正しい知識を得る。 送迎時や訪問時にご家族に適切な相談・援助を行える姿を目指す。	地域の中での通所介護事業の役割を理解でき頼りになる研修を取り入れ総合的に援助が行える体制を目指す。	認知症実践者研修へ1名参加し修了した。 認知症ケアの具体的な資質向上については途上であるが、今後はユニチュードなどを参考にしていこうと考えている。
		業務マニュアルの更新 部署内会議を活用して検討を進める	業務マニュアルの再編を部署内会議において全てのスタッフが知恵を出し合いよりよいものにしていく一般の介護マニュアル、服務規程、運営規定等と照らし合わせながら事業所のマニュアルを再構築する。	現状の業務マニュアルを丁寧に見直し、個別的であるだけでなく、より効果的で効率的な業務が実践出来ることを目指していく。 そのために必要なエビデンスやニーズについても丁寧に検討出来る様にする。	業務マニュアルについてはある程度作成したが、完成に至っていない。ケアプランや通所介護計画に忠実に添えるようにさらなる完成度を高めていく。 また、グループチャットツールSlackを活用して常にスタッフ同士が情報共有できる環境整備を行った。
コメント	平成31年半ばに利用定員を30名から35名に増員している。このことに対応するために職員を増員するなどの対応をしていることである。 また、グループチャットであるSlackのシステムをスタッフグループとして構築してスタッフ間の情報共有が随時行えるようにした。Slackは閉鎖型のソーシャルネットワークサービスであり、事業所内だけの情報共有に特化したサービスある。セキュリティ性能が高く多くの企業で利用が進んでいる。 また、平成31年度(2019年度)の年度末にかけて新型コロナウイルス感染症の影響で利用者の減少が認められた。感染対策強化とともに今後デイサービスに休業要請があった場合の対応などを協議しておく必要がある。				

	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるために (質を高める具体策)	評価 (達成の内容・程度)
1 理念の継承	神愛会の理念と地域包括ケアシステムの整合性に留意しながら、特に医療と介護の連携および地域ケア会議(月1回)を通じて個別ケースを検討することによって明らかになる地域課題の解決に向けて協力する。	管理者が事業所内の会議において、神愛会の理念と当該地域の地域包括ケアシステムの方向性に留意しながら、まずは週1回の事業所内会議でケースを検討し、月1回の地域ケア会議でも同様のことに留意していく。	事業所内の会議については管理者が中心となりケースの検討を通して理念継承に向けた意識を共有していく。地域ケア会議においては、当事業所の主任介護支援専門員は指導的な役割などを意識して対応していく。	地域包括ケアシステムを機能させるためには地域において円滑で効果的なネットワークを形成しなければならない。そのためには、介護支援専門員ひとり一人が神愛会の理念を意識しながら介護支援専門員であることを意識し、自らのケースはもとより地域課題にも丁寧に意識を向けていく。	毎月概ね4回開催する居宅介護支援事業所としての会議では毎回一人一人の利用者の状況を概観する機会とし、その内容を介護支援専門員同士で共有する機会としている。しかし、地域課題の抽出というところまでは意識化できていない。今後の課題と言える。
2 サービスの質の向上	当該地域(上富田町)で開催されている地域ケア会議におけるケース検討などを通じて当該地域の地域課題を意識し、場合によってはともに解決するために積極的に協力していく。	毎月1回開催される上富田町地域ケア会議に必ず参加し、ケース検討などを通じて参加する他の専門職などと共に地域課題を明らかにしていく。	上富田町地域ケア会議において、事業所としてまた主任介護支援専門員として個別ケースの検討はもとより、そこで明らかになる地域課題に着目していきます。そして、できれば生活のしづらさを抱えた人たちが安心して生活できる地域を共につくっていきけるように、積極的な関わりを惜しまず対応していきます。	上富田町における地域ケア会議は地域で働く介護支援専門員と地域包括支援センターなど担当者がケース検討などを行う機会であり、グループスーパービジョンの機能も意識しなければならないため、主任介護支援専門員として丁寧な質問と分析、そして適切なアドバイスができるようにしていきます。	毎月開催される上富田町における地域ケア会議では常に誰かが参加し、気づきの事例検討にも居宅介護支援事業所として事例を出した。主任介護支援専門員としての意識をもって参加できていると考えている。
	圏域内で構築が進んでいる医療と介護の双方向情報共有システムくろしおNETについて普及と有効な稼働が道半ばである。	くろしおNETが確實、有効に稼働できるように、年度を通して積極的に協力し、実際にチーム登録を行い、運用を試みる。	くろしおNETの参加同意についてできるだけ多くの利用者が行えるように、全ての介護支援専門員が継続して説明を行うと共に、実際に運用を行いながら改善点を明らかにしていく。	くろしおNETの説明については個人情報との共有という性格から丁寧な説明が費用が必要なことから、年度を通して確実に対応していきます。	くろしおNETの加入についてはそれほど進んでいない。これは、青洲リンクとの連携の悪さから利用価値を見いだせずに現状にあることが主な原因であるが、徐々にその連携も進んでいるため、できるだけ広く利用できるように、協力していく事としている。
3 職員の資質向上	①ケアマネジメントの質を高めるための研修の継続的な受講 ②医療・保健・介護の連携を進めるための取り組みの継続	①ケアマネジメントの専門性を高めより良い支援が行える力をつけるために積極的な必要な研修への計画的な参加 ②圏域内で月1回開催されている医療・保健・介護の連携を進める会への積極的な参加	介護支援専門員それぞれが業務マネジメントを緻密に行いながら、出来るだけ効果的な研修に参加できるようにする。	研修に参加した成果を事業所内及び場合によっては上富田町地域ケア会議において丁寧に共有し、事業所全体の資質向上に繋がるようにする。	主に、日本介護支援専門員協会、和歌山県介護支援専門員協会、日本ケアマネジメント学会、日本社会福祉士会が開催する研修および医療・保健・介護の連携を進める会への参加したいところであるがコロナの影響から研修自体が中止となっている状況が続いている。研修が再開されれば積極的に参加していく。また質的向上の評価は難しいが、参加することで地域内、専門職同士の連携は保つことが出来ていると考えている。
	介護支援専門員はスキルアップを目指していけるよう、また主任介護支援専門員は指導者としての知識を習得とレベルアップを目指していくため研修への参加は必要である。	左記の研修に参加した上でその研修の到達目標に沿った力が養われる。	主任介護支援専門員研修・介護支援専門員更新研修・主任介護支援専門員更新研修へ参加し、スーパービジョンに必要なスキルを身に着ける。このほかにも認定社会福祉士の習得に向けてそれぞれ個別に高い到達目標を達成していく。	いずれの研修も丁寧にとりくみ、効果的に目標が達成できるようにする。	上記の通り、研修への参加は積極的にやりたいが、コロナの影響で研修が未定となっている。コロナが終息の目途がつき、研修が再開されれば積極的に実施する。
コメント	平成31年度は介護支援専門員が1名退職し新たに1名が増員した。平成31年度の1名が増員をしたものの、法人の移動で1名が欠員したため特定事業所加算Ⅱから特定事業書加算Ⅲと加算が変更となった。1名欠員したこともあり利用者数を増やす事も限界があるため出来るだけ早く介護支援専門員の増員と、増員する事で特定事業所加算Ⅱが習得できるようにしていきたい。				

	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるために (質を高める具体策)	評価 (達成の内容・程度)
1 理念の継承	キリスト教精神に基づいて運営されている施設である事の自覚をもって、業務に当たる。	年間を通して。	朝のレポートで、各部署の1日の業務の共通理解、申し送り事項の把握、対応。	各自の使命感の自覚。	朝のお祈りから始まりレポートで、各部署の1日の業務を依頼書、申し送りノートを活用して対応出来た。
2 サービスの質の向上	①高齢化に伴う入居者の安全・安心な生活支援。	環境整備。	年間を通して。	必要に応じて、介護認定の声かけ。入居者の状態把握。訪問介護、看護、ケアマネとの連携。	入居者から介護認定の相談や、身体状態の申し出があった際、必要に応じ訪問看護や訪問介護について、ケアマネ、施設長、職員で情報を共有し対応出来た。 月1回職員に合わせて安全対策委員会を設け情報を共有あい入居者の皆様の安全に努める。
	機器・備品の点検	年間を通して。	自分達で行える事は行う。 必要時業者に依頼。	皆で意見を出し合う。 各自が関わっているという認識を持つ。 申し送りをきちんと行う。	機器、備品その他修繕について、出来る限り節約に心掛けて、皆で相談して対応していく事が出来た。
コメント					

【2019 年度 入居者・利用者の状況】

A 特別養護老人ホーム愛の園（定員 90 名）（2020 年 3 月 31 日現在）

(1)入居者数

	人数	対定員%
2018 末入居者数(a)	80	88.8
2019 内退居者数(b)	16	17.7
2019 内入居者数(c)	20	22.2
2019 末入居者数(a-b+c)	84	93.3
平均入居者数	83.1	92.3
19 年度延入居者数	30714	

(2)年齢別構成

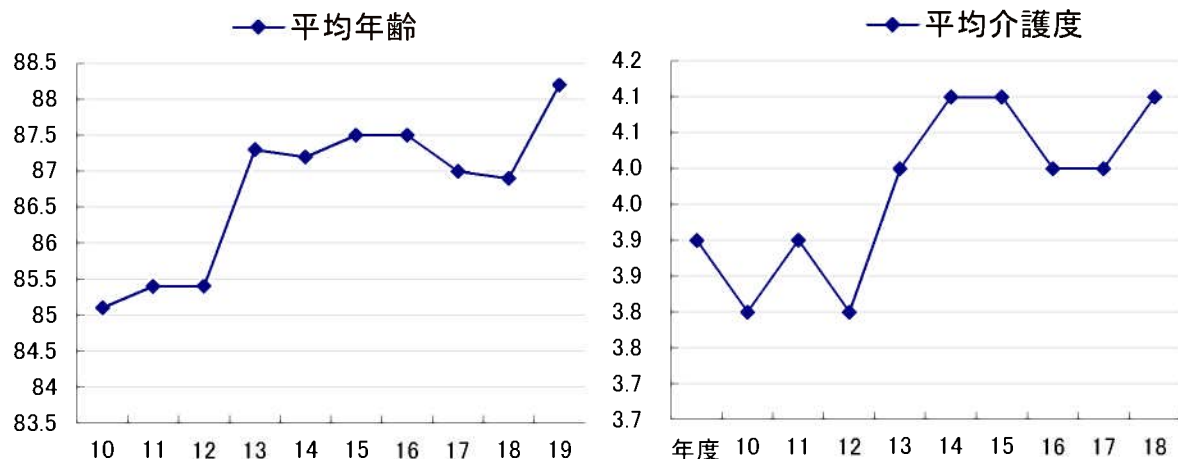
	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	計
男性	0	1	0	1	2	1	8	13
女性	1	1	2	4	7	26	30	71
計	1	2	2	5	9	27	38	84
構成比(%)	1.2	2.4	2.4	6.0	10.7	32.1	45.2	100.0
2018 年度	2	2	2	5	12	26	32	84

平均年齢 全体 88.1 男性 88.2 歳 女性 88.0 歳

(3)要介護度別構成

	1	2	3	4	5	計
男性	0	0	3	6	4	13
女性	0	2	9	40	20	71
計	0	2	12	46	24	84
構成比(%)	0.0	2.4	14.3	54.8	28.6	100.0
2017 年度	0	3	17	34	22	76

年間平均介護度 全体 4.1 男性 4.1 女性 4.1



(4)入居年数別構成

	～1 年	～3 年	～6 年	～9 年	10 年～	計
男性	4	5	3	1	0	13
女性	14	25	18	10	4	71
計	18	30	21	11	4	84
構成比(%)	21.4	35.7	25.0	13.1	4.8	100.0
2017 年度	14	25	20	11	12	76

平均入居年数 3.6 年 男性 2.4 年 女性 3.8 年

(5)待機者状況

	2019 末	2019 末	2017 末	2016 末	2015 末	2014 末
男性	25	17	20	22	44	43
女性	47	23	28	32	70	81
計	72	40	48	54	114	124



B ショートステイ(短期入所生活介護・定員 10 名)利用状況

(1)月別利用者数

	利用実人数			利用延人数			日平均
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	
4月	5	16	21	34	110	144	4.8
5月	4	18	22	30	123	153	4.9
6月	6	14	20	43	125	168	5.6
7月	4	18	22	12	139	151	4.9
8月	5	23	28	20	129	149	4.8
9月	2	16	18	5	117	122	4.1
10月	3	21	24	8	145	153	4.9
11月	3	19	22	10	123	133	4.4
12月	3	22	25	10	130	140	4.5
1月	3	20	23	12	130	142	4.6
2月	3	18	21	7	130	137	4.7
3月	3	18	21	15	129	144	4.6
合計	44	223	267	206	1,530	1,736	4.7

(2)利用者数の推移

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	対前年比%
年間利用者数	5,097	5,464	2,274	1,807	1,736	96.0
1 月平均利用者数	425	605	189.5	150.6	145	96.0
1 日平均利用者数	14.0	15.0	6.2	5.0	4.7	94.0

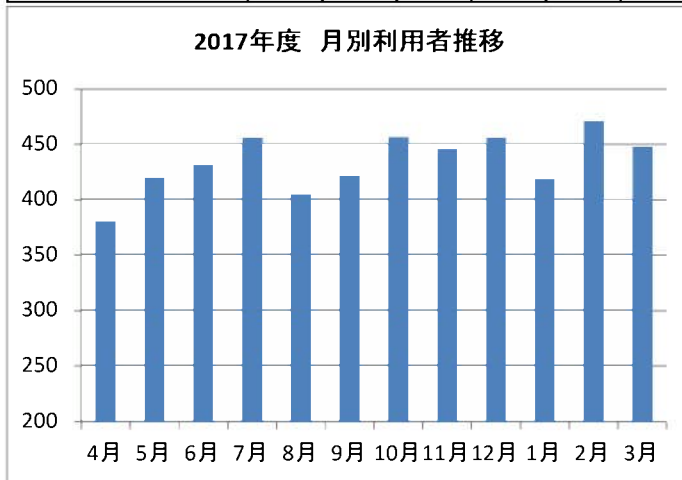
(3)介護度別利用状況

	支 1	支 2	介 1	介 2	介 3	介 4	介 5	合計
実人数	0	10	55	86	62	28	26	267
延人数	0	39	255	584	459	105	294	1,736
構成比%	0	2.2	14.7	33.6	26.4	6.0	16.9	99.8
2017 延人数	0	64	190	850	167	199	337	1,807

C デイサービスセンター愛の園(定員35名)

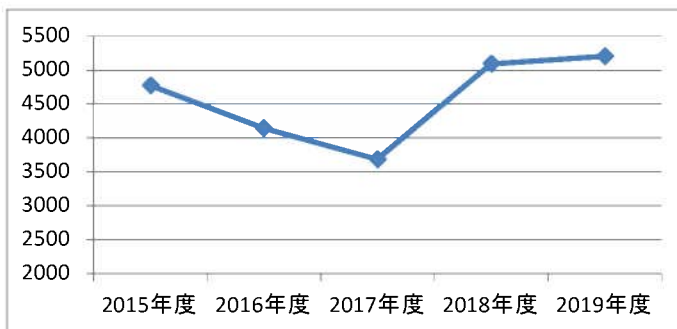
(1)利用者月別推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延利用者合計	380	419	431	456	404	421	457	445	456	418	471	448	434
1日平均利用者	16.1	17	19	18.2	16.8	18.2	18.1	18.3	19.4	17.4	18.8	17.2	17.8
月別登録者	45	43	42	45	43	46	46	46	49	49	48	49	45.9



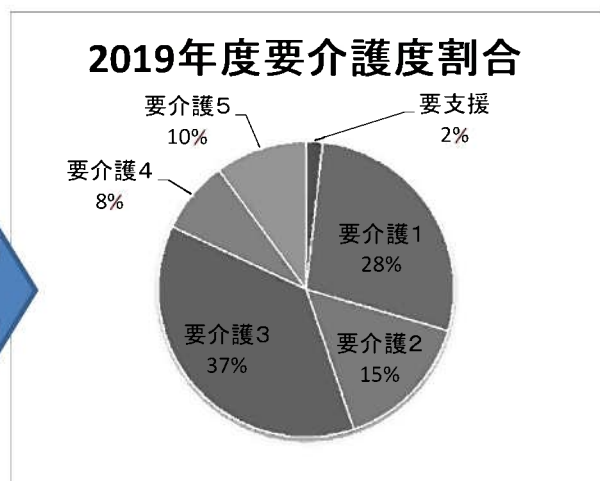
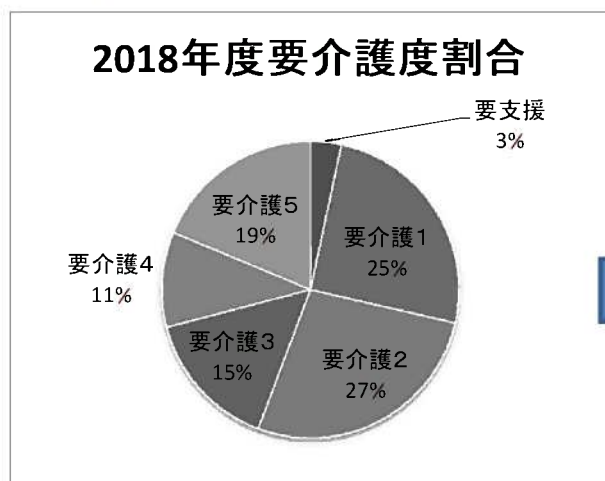
(2)利用者数の推移

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	前年度との増減費(%)
延利用人員	4778	4145	3688	5096	5206	102.2%
1日平均利用者数	15.4	13.4	11.9	16.2	17.8	109.9%



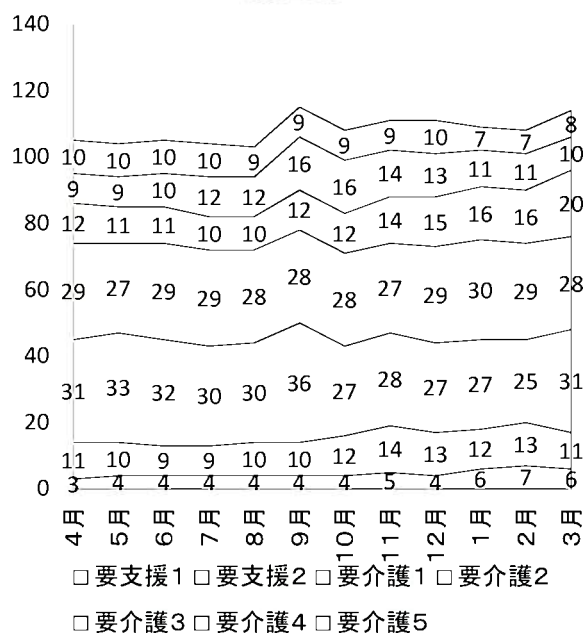
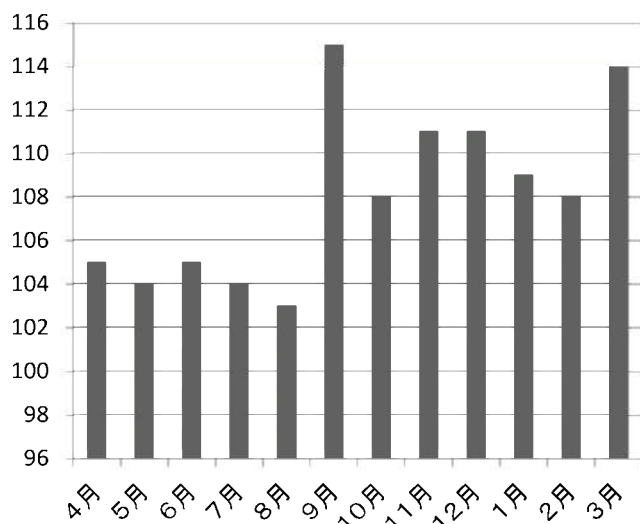
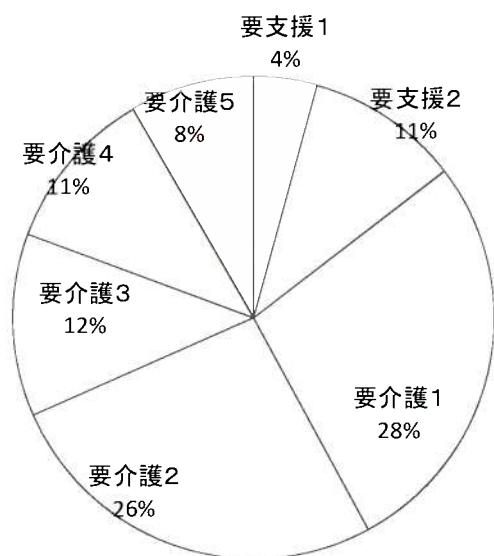
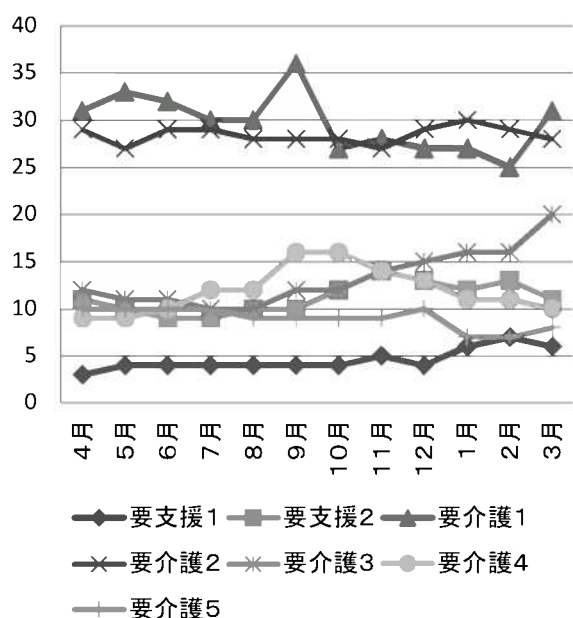
(3)介護度別利用状況

要介護度	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
2019年度延利用回数	93	1444	794	1935	416	524	5206
構成比(%)							
2018年度延利用回数	170	1282	1377	772	526	950	5077
構成比(%)	3.3%	25.3%	27.1%	15.2%	10.4%	18.7%	



D. 居宅介護支援事業者愛の園

2019年度	月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
計画作成人数	4月	3	11	31	29	12	9	10	105
	5月	4	10	33	27	11	9	10	104
	6月	4	9	32	29	11	10	10	105
	7月	4	9	30	29	10	12	10	104
	8月	4	10	30	28	10	12	9	103
	9月	4	10	36	28	12	16	9	115
	10月	4	12	27	28	12	16	9	108
	11月	5	14	28	27	14	14	9	111
	12月	4	13	27	29	15	13	10	111
	1月	6	12	27	30	16	11	7	109
	2月	7	13	25	29	16	11	7	108
	3月	6	11	31	28	20	10	8	114
	計	55	134	357	341	159	143	108	1297



[illegible]

F 介護員養成研修事業

(1) 実施状況

介護職員初任者研修（通信）

実施期間	
実施場所	
受講料	
参加者	

2019年度は実施することができませんでした。

【2019年度 入居者・利用者の状況】

A 特別養護老人ホーム愛の園(定員90名) (2020年3月31日現在)

(1)入居者数

	人数	対定員%
2018末入居者数(a)	80	88.8
2019内退去者数(b)	16	17.7
2019内入居者数(c)	20	22.2
2019末入居者数(a-b+c)	84	88.36
平均入居者数	83.1	72.3
2019年度述べ入居者数	30714	

(2)年齢別構成

	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	計
男性	0	1	0	1	2	1	8	13
女性	1	1	2	4	7	26	30	71
計	1	2	2	5	9	27	38	84
構成比(%)	1.2	2.4	2.4	6.0	10.7	32.1	45.2	100.0
2018年度	2	2	2	5	12	26	32	84
平均年齢	全体	88.1	男性	88.2	女性	88.0		

(3)要介護度別構成

	1	2	3	4	5	計
男性	0	0	3	6	4	13
女性	0	5	9	40	20	71
計	0	5	12	46	24	84
構成比(%)	0.0	2.4	14.3	54.8	28.6	100.0
2018年度	0	3	17	34	22	76
年間平均介護度	全体	4.1	男性	4.1	女性	4.1

(4)入居年数別構成

	～1年	～3年	～6年	～9年	～10年	計
男性	4	5	3	1	0	13
女性	14	25	18	10	4	71
計	18	30	21	11	4	84
構成比(%)	21.4	35.7	25.0	13.1	4.8	100.0
2018年度	14	25	20	11	22	76
平均入居年数	全体	4.1	男性	4.1	女性	3.8

(5)待機者状況

	2019末	2018末	2017末	2016末	2015末	計
男性	25	17	20	22	44	43
女性	47	23	28	32	70	81
計	72	40	48	54	114	124



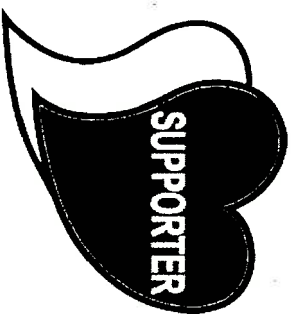
～障害を知り、共に生きる～

あいサポート企業・団体認定証

次の企業・団体を「あいサポート企業・団体」として認定します。

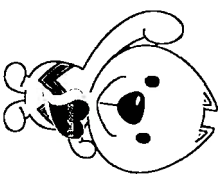
西牟婁郡上富田町生馬 3 1 6－5 6

特別養護老人ホーム 愛の園



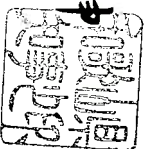
認定番号：第 R 1－5 号

認定日：令和元年 12 月 18 日



和歌山県知事 仁坂

吉伸



2019年度 愛の園後援会より寄贈された軽自動車



賞状

知事賞

職場地域の部

社会福祉法人神愛会様

あなたは第3回和歌山県
花いっぱいコンクールに
おいて優秀な成績を
おさめられたのでこれを
賞します

令和元年十二月十四日

和歌山県知事 仁坂吉伸

神愛会(畜)が最優秀賞 花いっぱいコンクール



で表彰されるのは次の皆さん。
【花を愛する県民の集い】功
労者感謝状「シーサイド大神
崎自治会フーケの会(田辺市)

花を愛する県民の集い(二
階後援会長)は29日、第23回
花いっぱいコンクールの受賞
者を発表した。「職場・地域
の部」で社会福祉法人神愛会
(上富田町)が最優秀賞に選
ばれた。

【職場・地域の部】で最優秀
賞に選ばれた神愛会の花壇
(上富田町生馬で)

花を愛する県民の集い(二
階後援会長)は29日、第23回
花いっぱいコンクールの受賞
者を発表した。「職場・地域
の部」で社会福祉法人神愛会
(上富田町)が最優秀賞に選
ばれた。

【学校の部】優秀 南白浜
小(白浜町)▽優良 高城小
(みなべ町)、中辺路中(田
辺市)、田辺東部小(同)

3部門に計113件の応募が
あった。それぞれ最優秀賞1
件、優秀賞2件、優良賞3
4件が決まった。

【職場・地域の部】優秀 下
里とも子カーデン(那智勝
浦町)、神子浜町内会(田辺
市)▽優良 上の山花グルー
プ、古尾花の会、ユートピア
の会(以上、田辺市)

神愛会(宮崎子代表)は
上富田町生馬で運営している
特別養護老人ホーム「愛の園」
正面玄関脇の花壇で、職員と
ボランティアが日々の植え替
え、水やり、草取りに取り組
んでいる。

【家庭の部】優秀 森千明
子(上富田町)▽優良 仲川令
子(田辺市)、堀富美子、前
久保恭子、榎木徳子(以上、
上富田町)▽特別賞 桐原特
臣、那須幹夫(以上、田辺市)

各部の入賞者は12月14日午
後2時から、有田川町金屋の
文化保健センターで開かれる
「花を愛する県民の集い大
会」で表彰される。

県民の集い大会では功労者
への感謝状贈呈もある。紀南
神愛会のほか、紀南地方の